

# 信州大学麻酔科専門研修プログラム

## (大都市圏あるいは大学のモデルプログラム)

### 1. 専門医制度の理念と専門医の使命

#### ① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

#### ② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

### 2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。また多職種による専攻医評価とフィードバックを計画している。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

### 3. 専門研修プログラムの運営方針

- 小児麻酔，集中治療，ペインクリニック・緩和医療を3か月間ずつ研修する。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B），ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C），集中治療

を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。

#### 研修実施計画例

|           | A（標準）         | B（小児）         | C（ペイン）         | D（集中治療）       |
|-----------|---------------|---------------|----------------|---------------|
| 初年度<br>前期 | 本院            | 本院            | 本院             | 本院            |
| 初年度<br>後期 | 本院            | 本院            | 本院             | 本院            |
| 2年度<br>前期 | 本院<br>こども病院   | 本院            | 本院<br>こども病院    | 本院<br>こども病院   |
| 2年度<br>後期 | 本院<br>（集中治療）  | 本院<br>（集中治療）  | 関連施設           | 関連施設          |
| 3年度<br>前期 | 関連施設          | こども病院         | 関連施設           | 関連施設          |
| 3年度<br>後期 | 関連施設          | こども病院         | 市本院（+ペイン・緩和研修） | 本院<br>（集中治療）  |
| 4年度<br>前期 | 本院（+ペイン・緩和研修） | 本院（+ペイン・緩和研修） | 本院<br>（集中治療）   | 本院（+ペイン・緩和研修） |
| 4年度<br>後期 | 本院            | 本院            | 本院             | 本院            |

#### 週間予定表

##### 本院麻酔ローテーションの例

|    | 月   | 火    | 水   | 木   | 金   | 土   | 日  |
|----|-----|------|-----|-----|-----|-----|----|
| 午前 | 手術室 | 手術室  | 手術室 | 手術室 | 手術室 | 手術室 | 休み |
| 午後 | 手術室 | 術前外来 | 手術室 | 休み  | 手術室 | 休み  | 休み |
| 当直 |     |      | 当直  |     |     |     |    |

#### 4. 研修施設の指導体制

##### ① 専門研修基幹施設

研修実施責任者：田中 聡

専門研修指導医：田中 聡（麻酔、ペインクリニック）

間宮 敬子（緩和医療、ペインクリニック）

石田 高志（麻酔）

石田 公美子（麻酔）

浦澤 方聡（麻酔、ペインクリニック）

伊藤 真理子（麻酔）

渡邊 奈津子（麻酔）

丸山 友紀（麻酔、心臓血管外科麻酔）

村上 徹（麻酔、心臓血管外科麻酔）

専門医：新井 成明（麻酔、心臓血管外科麻酔）

蜜澤 邦洋（麻酔）

飯田 圭輔（麻酔）

田中 成明（麻酔、緩和）

竹腰 正輝（麻酔）

嶋尾 拓海（麻酔）

宮崎 明子（麻酔）

山田 利恵子（麻酔）

清水 布実子（麻酔）

大場 衣梨子（麻酔）

後藤 咲耶子（麻酔）

小川 麻理恵（麻酔）

松崎 敦子（麻酔）

麻酔科認定施設番号：31

特徴：集中治療、ペインクリニック、緩和医療のローテーション可能

Awake surgeryの麻酔、肝移植の麻酔などを修練可能。胸部大血管手術における神経機能モニタリングなどを行っている。

##### ② 専門研修連携施設A

###### 長野市民病院

研修実施責任者：成田 昌広

専門研修指導医：成田 昌広（麻酔）

川上 勝弘（麻酔、小児麻酔）

高野 岳大（麻酔）

北川原 康子（麻酔）

認定病院番号：785

特徴：地域の中核総合病院. がん診療を重視.

### 北信総合病院

研修実施責任者：菱沼 典正

専門研修指導医：菱沼 典正（麻酔、心臓麻酔、緩和ケア）

馬場 浩介（麻酔、緩和ケア、ペインクリニック）

城下 裕子（麻酔）

専門医：安藤 晃（麻酔）

認定病院番号：291

特徴：地域の中核総合病院. 地域がん診療病院. 希望者は緩和ケアチームへの参加可能.

### 長野県立信州医療センター

研修実施責任者：清水 俊行

専門研修指導医：清水 俊行（麻酔、東洋医学）

専門医：有賀 真里菜（麻酔）

認定病院番号：963

特徴：地域の中核的病院 外来は週4日（ペインクリニック、漢方専門外来）

### 長野松代総合病院

研修実施責任者：鬼頭 剛

専門研修指導医：鬼頭 剛（麻酔・ペインクリニック）

水戸野 裕之（麻酔・小児麻酔）

伊藤 真騎（麻酔）

認定病院番号：683

特徴：北信地区の中堅病院、ペインクリニックはローテーション可.

### 南長野医療センター 篠ノ井総合病院

研修実施責任者：中島 浩一

専門研修指導医：中島 浩一（麻酔）

笠間 美穂（麻酔）

坂本 明之（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）

田中 秀典（麻酔、心臓血管麻酔）

専門医：鈴木 真依子（麻酔）

認定病院番号：639

特徴：地域の中核総合病院.

### 安曇野赤十字病院

研修実施責任者：雄山 瑞巖

専門研修指導医：雄山 瑞巖（麻酔、ペインクリニック）

坪川 和範（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：658

特徴：地域の中核総合病院、地域医療支援病院.

### まつもと医療センター

研修実施責任者：新倉 久美子

専門研修指導医：井上 泰朗（麻酔、集中治療）

新倉 久美子（麻酔、集中治療）

認定病院番号：312

特徴：地域の中核病院。胸部外科麻酔、超高齢者の麻酔が多い.

### 相澤病院

研修実施責任者：小笠原 隆行

専門研修指導医：小笠原 隆行（麻酔）

蒲生 正裕（麻酔）

坂口 秀弘（麻酔）

丹下 大祐（麻酔）

花岡 透子（麻酔）

山本 基佳（麻酔）

田口 千聡（麻酔）

認定病院番号：860

特徴：地域の中核総合病院. 小児を除けば各診療科の手術で豊富な麻酔経験が可能.

### 諏訪赤十字病院

研修実施責任者：池野 重雄

専門研修指導医：池野 重雄（麻酔、ペインクリニック）

横田 茂（麻酔）

土橋 哲也（麻酔、心臓血管麻酔）

平林 高暢（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

清澤 研吉（麻酔）

専門医：中村 博之（麻酔）

認定病院番号：590

特徴：地域の中核病院。ペインクリニックのローテーション可能、緩和ケアチームへの参加可能。

### 伊那中央病院

研修実施責任者：笹尾 潤一

専門研修指導医：笹尾 潤一（麻酔、ペインクリニック）

篠原 顕治（麻酔、ペインクリニック）

白鳥 徹（麻酔、集中治療）

専門医：木内 千暁（麻酔）

松井 周平（麻酔）

相場 一馬（麻酔）

認定病院番号：637

特徴：地域の中核総合病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院。

### 丸の内病院

研修実施責任者：安藤尚美

専門研修指導医：安藤尚美（麻酔）

加藤幹芳（麻酔）

専門医：村上育子（麻酔）

認定病院番号：1536

特徴：整形外科の症例が豊富。他、産婦人科、外科が多い。

### 京都府立医科大学附属病院

研修実施責任者：佐和貞治

専門研修指導医：佐和 貞治（麻酔）

天谷 文昌（ペインクリニック・緩和医療）

小尾口 邦彦（集中治療）

上野 博司（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）

柴崎 雅志（麻酔）

小川 覚（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）

石井 祥代（麻酔）

内藤 慶史 (麻醉)  
飯田 淳 (麻醉)  
早瀬 一馬 (ペインクリニック・緩和医療・集中治療)  
木下 真央 (麻醉)  
山北 俊介 (麻醉)  
山田 知見 (麻醉)  
堀井 靖彦 (麻醉)  
甲斐沼 篤 (麻醉)

専門医：井上 美帆 (麻醉・集中治療)  
井上 敬太 (集中治療)  
吉井 龍吾 (集中治療)  
北口 菖子 (麻醉・集中治療)  
石川 大基 (麻醉)  
藤田 太輔 (麻醉)  
須藤 和樹 (集中治療)  
鈴木 悠 (麻醉)

麻醉科認定病院番号：18

特徴：集中治療、ペインクリニックのローテーション可能

#### 和歌山県立医科大学附属病院

研修実施責任者：川股 知之

専門研修指導医：川股 知之 (麻醉、ペインクリニック、緩和医療)  
水本 一弘 (麻醉、集中治療、ペインクリニック)  
栗山 俊之 (麻醉、ペインクリニック、緩和医療)  
時永 泰行 (麻醉)  
藤井 啓介 (麻醉、区域麻醉、心臓血管外科麻醉)  
山崎 亮典 (麻醉、区域麻醉)  
樋口 美沙子 (麻醉)  
谷奥 匡 (麻醉、神経麻醉)  
平井 亜葵 (麻醉)  
黒崎 弘倫 (麻醉)  
吉田 朱里 (麻醉、小児麻醉、心臓血管外科麻醉)  
神田 佳典 (麻醉)  
専門医：丸山 智之 (麻醉、ペインクリニック)  
山崎 景子 (麻醉、集中治療)  
西畑 雅由 (麻醉)

山本 香寿美（麻酔）  
小川 舜也（麻酔、ペインクリニック、集中治療）  
大森 由佳（麻酔）

麻酔科認定病院番号40

特徴：ペインクリニック、緩和ケア、集中治療のローテーション可能

ロボット支援手術・経カテーテル大動脈弁留置術など先進的手術症例、高度救命救急センターならではの救急手術症例など多くの手術症例を経験できる。また、無痛分娩、エコーガイド下・透視下ブロックを駆使したペインクリニック研修、緩和ケア病棟・チームでの研修、集中治療の研修といったフレキシブルな研修ができる。

### 国立循環器病研究センター

研修実施責任者：前田 琢磨

専門研修指導医：前田 琢磨

吉谷 健司

金澤 裕子

南 公人

月永 晶人

下川 亮

専門医：加澤 昌広

増田 聖

森永 将裕

肥塚 幸太郎

伊藤 芳彰

細井 貞則

川喜田 靖明

奥田 千愛

岩佐 美

寺田 裕作

本庄 俊介

森田 雄斗

認定病院番号：168

特徴：センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室である。ロボット手術専用室やCOVID対応印圧手術室も設置している。2022年度の症例数は、ほぼ前年と同程度であった。緊急大動脈解離手術は88症例、ロボット手術による小切開心臓手術も92症例であった。また、劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も47症例

であり、心臓移植も12症例に施行した。麻酔科医はスタッフ8名レジデント17名で対応した。集中治療専属医は2名であった。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、集中治療室でも1名当直、オンコール2名ですべての緊急症例および集中治療室管理に対応した。2023年はICUスタッフとPICUスタッフを新たに8名加え、スタッフ麻酔科医8名、集中治療医7名、PICU医師5名、産科麻酔科医1名とレジデント16名で対応していく予定である。

### ③ 専門研修連携施設B

#### 浅間南麓こもろ医療センター

研修実施責任者：田中 幸一

専門研修指導医：田中 幸一（麻酔）

認定病院番号：664

特徴：訪問診療に力を入れている。

#### 長野赤十字病院

研修実施責任者：田中 聡

専門研修指導医：田中 聡（麻酔、ペインクリニック）

黒岩 香里（麻酔）

平森 朋子（麻酔）

吉山 勇樹（麻酔、ペインクリニック）

専門医：山田 友克（麻酔）

認定病院番号：438

特徴：地域の中核総合病院。外科系各診療科の麻酔を経験できる。心臓血管麻酔専門医認定施設。

#### 長野中央病院

研修実施責任者：中村 達弥

専門研修指導医：中村 達弥（麻酔、集中治療）

認定病院番号：1037

特徴：地域に根ざした病院。

#### 信州上田医療センター

研修実施責任者：望月 憲招

専門研修指導医：望月 憲招（麻酔）

今井 典子（麻酔）

大田 恵理子（麻酔）

認定病院番号：1618

特徴：地域医療支援病院.

### 松本市立病院

研修実施責任者：小林 幹夫

専門研修指導医：小林 幹夫（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：1447

特徴：松本平西部地区の基幹病院。産科から老年麻酔まで幅広い年齢層の麻酔を担当.

### 昭和伊南総合病院

研修実施責任者：大房 幸浩

専門研修指導医：大房 幸浩（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：923

特徴：長野県南部に位置し地域医療の中心を担う病院である。特に消化器病センターにおける内視鏡検査症例数は2万例を誇るため、多くの消化器病手術を経験できる.

### 北アルプス医療センターあづみ病院

研修実施責任者：新倉 明和

専門研修指導医：新倉 明和（麻酔）

小林 浩一（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：1217

特徴：地域の中核総合病院、希望により緩和ケアチームへの参加可能.

### 長野県立こども病院

研修実施責任者：市野 隆

専門研修指導医：市野 隆（麻酔、小児麻酔）

専門医：入江 知恵子（麻酔）

認定病院番号：666

特徴：小児専門病院、小児麻酔・先天性心疾患麻酔の研修可能.

### 杏林大学医学部附属病院（以下、杏林大学）

研修プログラム統括責任者：萬 知子

専門研修指導医：萬 知子（手術麻酔全般・医療安全）

鎮西 美栄子（緩和医療）

徳嶺 讓芳（手術麻酔全般・医療安全）

森山 潔（集中治療）  
関 博志（手術麻酔全般・周術期管理）  
中澤 春政（心臓麻酔・術後鎮痛）  
小谷 真理子（集中治療）  
本保 晃（周術期管理・産科麻酔）  
足立 智（心臓麻酔）  
竹内 徳子（手術麻酔全般）  
安藤 直朗（手術麻酔全般）  
澤田 龍治（区域麻酔・ペインクリニック）  
専門医：田渕 沙織（小児麻酔）  
腰原 未沙（産科麻酔）  
元山 宏展（手術麻酔全般）  
吉川 貴紘（手術麻酔全般）

認定病院番号 147

特徴：東京都多摩地区の基幹病院。年間約 7,000 件の麻酔科管理症例があり、麻酔科専門医として必要な手術症例を偏りなく研修することができる。日本有数の高度救急救命センター有しており、多くの急性期疾患患者の管理を経験し、学ぶことができる。また、ロボット補助下外科手術や TAVI、大動脈ステント治療といった循環器疾患血管内治療などの先進医療の麻酔管理を経験することができる点も本施設の特徴である。

#### 埼玉医科大学総合医療センター

研修実施責任者：小山 薫  
専門研修指導医：小山 薫（麻酔，集中治療）  
照井 克生（麻酔，産科麻酔）  
小幡 英章（麻酔）  
鈴木 俊成（麻酔，区域麻酔）  
清水 健次（麻酔，ペインクリニック）  
田村 和美（麻酔，産科麻酔）  
丸尾 俊彦（ペインクリニック）  
山家 陽児（麻酔，ペインクリニック）  
松田 祐典（麻酔，産科麻酔）  
加藤 崇央（麻酔，集中治療）  
成田 優子（麻酔，産科麻酔）  
田澤 和雅（麻酔）  
加藤 梓（麻酔，産科麻酔）  
佐々木 華子（麻酔）

北岡 良樹 (麻醉)  
金子 恒樹 (麻醉, 産科麻醉)  
原口 靖比古 (麻醉)  
伊野田 絢子 (麻醉, 集中治療)  
専門医 : 杉本 真由 (麻醉, ペインクリニック)  
高橋 綾子 (麻醉)  
金子 友美 (麻醉)  
黒川 右基 (麻醉, 集中治療)  
黒木 将貴 (麻醉)  
岡田 啓 (麻醉)  
大久保 訓秀 (麻醉)  
野口 翔平 (麻醉, 産科麻醉)  
松浦 千穂 (麻醉)  
渡辺 楓 (麻醉, 産科麻醉)  
遠藤 奈穂 (麻醉, 産科麻醉)

認定病院番号 : 390

特徴 : 県内唯一の総合周産期母子医療センターかつ高度救急救命センターでドクターヘリが設置されている。急性期医療に特化した麻醉管理のみならず, 独立診療体制の産科麻醉, ペイン, 集中治療のローテーションが可能で, 手術室麻醉のみならずオールラウンドな麻醉科医を目指すことができる。

### 聖路加国際病院

研修実施責任者 : 阿部 世紀  
専門研修指導医 : 阿部 世紀 (麻醉, 小児麻醉)  
藤田 信子 (麻醉, 心臓麻醉, 産科麻醉, ペインクリニック)  
林 督人 (麻醉, 区域麻醉, 産科麻醉, ペインクリニック)  
林 怜史 (麻醉, 心臓麻醉)  
佐久間 麻里 (麻醉, 救急)  
篠田 麻衣子 (麻醉, 区域麻醉)  
早坂 知子 (麻醉)  
専門医 : 小山 杏奈 (麻醉, 産科麻醉, ペインクリニック)  
片倉 友美 (麻醉, 産科麻醉)  
山口 慧太郎 (麻醉)  
中張 裕史 (麻醉, 心臓麻醉, 小児麻醉)  
宮坂 清之 (麻醉, 小児麻醉, シミュレーション教育)  
城本 菜那 (麻醉, 心臓麻醉)

井上 真由子（麻酔、心臓麻酔）

認定病院番号：249

特徴：当院の手術室は15室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci手術（泌尿器、婦人科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。

挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる

### 東京歯科大学市川総合病院

研修実施責任者：大内 貴志

専門研修指導医：大内 貴志（麻酔）

小坂橋 俊哉（麻酔，緩和ケア・ペインクリニック）

印南 靖志（麻酔，集中治療）

井上 敬（麻酔，集中治療）

荻原 知美（麻酔，緩和ケア）

中山 純子（麻酔）

小平 智文（麻酔）

認定病院番号：688

特徴：東京歯科大学市川総合病院麻酔科専門医研修プログラムの基本方針は、最終到達目標を無理なく達成できるようにすることであり、専攻医ひとりひとりに合わせながらプログラムを調整して行く。研修1年目は、専門研修指導医によるマンツーマン指導下で研修を行う。当施設では、基本的に指導医間に麻酔方針に大きな差がないことも特徴であり、専攻医のストレス軽減の一助となっていると考える。2年目以降は、自主性を重視しながらも、専門研修指導医、麻酔科専門医によるスーパーバイズを受けられる体制下で研修を行う。3年目以降は、専門研修指導医と共に初期研修医の指導を経験できるようにする。希望者は、集中治療および緩和ケア研修を並行して行うことが可能である。

本プログラムでは将来の専門医受験資格に列記されている小児、帝王切開術、心臓血管手術、胸部外科手術、脳神経外科手術の麻酔症例のみならず、幅広い麻酔症例を経験できる。歯科大学の附属病院である当院の特徴の一つに、年間約400例の口腔外科症例があり、経鼻挿管や経鼻気管支ファイバー挿管の経験を積むことが可能である。また、研修内容としては臨床経験を積むことが中心であるが、国内や海外での学会発表や臨床研究などの学術面にも力を入れた指導を行い、将来の指導者を養成して行

く。

当院は忙しいものの、専攻医として十分な休養がとれるような配慮も行っている。具体的には、オンコール日の夜間勤務状況に応じてその翌日の勤務を免除するシステムや、不定期ではあるもののリフレッシュ休暇などである。また、院内保育園を有しており、女性医師が専攻医としてキャリアを積むことが可能である。

## 5. 専攻医の採用と問い合わせ先

### ① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

### ② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、信州大学麻酔科website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

信州大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 石田 高志 (統括医長)

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 信州大学医学部麻酔蘇生学教室

TEL 0263-37-2670

E-mail [tisd@shinshu-u.ac.jp](mailto:tisd@shinshu-u.ac.jp)

Website <http://www.shinshu-masui.jp/>

## 6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

### ① 専門研修で得られる成果 (アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

### ② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

### ③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

## 7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

## 8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

### 専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

### 専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

### 専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。

また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

#### 専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

### 9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

#### ① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

#### ② 総括的评价

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

### 10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的评价を元に修了判定が行われる。

### 11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らない

ように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

## 12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

### ① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

### ② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

### ③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

## 13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院、長野県立こども病院、国立循環器病センターなど幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必

要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

#### **14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)**

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。